

いしかりししていぶんかざい
石狩市指定文化財その2

■旧白鳥番屋（はまます郷土資料館）（石狩市浜益区浜益77）

石狩市指定文化財第6号／指定年月日：昭和56年12月9日 ※旧浜益村指定文化財の指定日

明治32（1899）年、白鳥浅吉が建設したニシン番屋。建物の内部は入口から左右に居住区が分かれ、左に漁夫、右に網元のスペースが配置されています。昭和46（1971）年、浜益村が開村百年の記念事業の一環でこの番屋を補修し、浜益村郷土資料館として公開を始め（現はまます郷土資料館）、昭和56（1981）年には浜益村指定文化財に指定されました（現石狩市指定文化財）。



石狩ファイルNo.85 厚田・浜益の鯨漁, 98 旧白鳥番屋, 129 浜益の指定文化財／北海道浜益郡浜益村（1980）浜益村史

■石狩弁天社の手水鉢

石狩市指定文化財第7号／指定年月日：平成25（2013）年3月28日

寛政元（1789）年の年号が刻まれた手水鉢で、江戸本材木町（現東京都日本橋）の小林店喜兵衛が石狩弁天社に奉納したものです。手水鉢側面には、「奥州南部大畑村」（現青森県むつ市）とあります。江戸・奥州南部・石狩川河口のつながりは、当時の蝦夷地と本州との木材（蝦夷ヒノキ）交易の販路を示すものと推測されます。



石狩町郷土研究会（1987）石狩の碑第一輯／石橋孝夫（2013）いしかり博物誌128（広報いしかり11月号）／札幌市教育委員会編（1989）新札幌市史第1巻通史1／田中實・石橋孝夫（1994）石狩弁天社史

■石狩紅葉山49号遺跡出土の木製品

石狩市指定文化財第8号／指定年月日：平成27（2015）年7月24日

石狩紅葉山49号遺跡から出土した縄文文化の木製品のうち、18点が指定されました。河川漁にともなう道具（タモ、魚たたき棒、松明）、魚捕獲施設の柵、河川の交通運搬具（櫂）、木材加工や施設設置に必要とされる道具（石斧柄、石斧固定具、横槌、尖り棒）、容器類（舟形容器、柄付容器、漆塗り浅鉢）があります。約4000年前の人々の暮らしと川との関わりを示す重要なものです。



石狩市教育委員会（2005）石狩紅葉山49号遺跡発掘調査報告書

■古潭龍澤寺の鰐口

石狩市指定文化財第9号／指定年月日：平成28（2016）年10月27日

厚田区古潭龍澤寺に伝えられた鰐口2点。うち1点には「松前城下村山傳兵衛」「寛政三年亥年三月吉日」、もう1点には「寛政四壬子歳八月廿日」と刻銘があります。近世より古潭には鯨漁場があり、本州と北海道を結ぶ交易船の投錨地でもありました。漁業でにぎわう近世の厚田の歴史にかかわる貴重な資料といえます。



※鰐口：社殿や仏堂に吊るされ、参詣者が布で編んだ縄で打ち鳴らすもの。

石狩市郷土研究会（2012）石狩の碑第四輯 厚田区編／厚田村（1969）厚田村史

（荒山千恵）